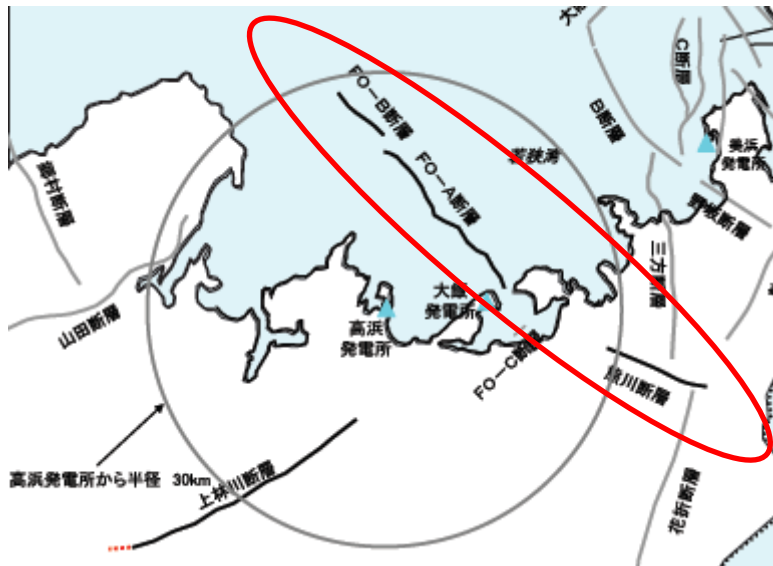
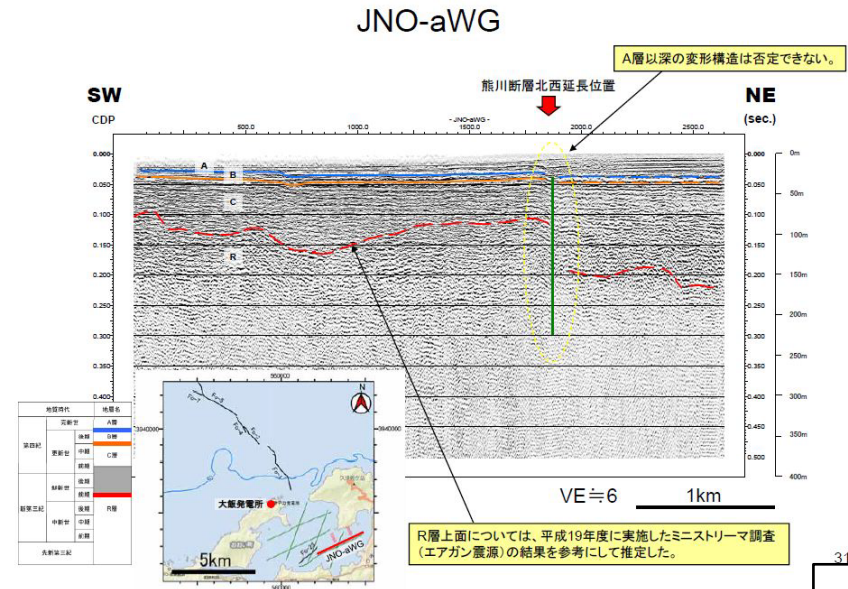


基準地震動

- 周辺活断層について、事業者は、申請当初FO-A～FO-B断層の2連動として評価。
 審査において、熊川断層の連動も考慮する必要性を指摘し、3連動としての評価に変更。
 - ・有識者にも審査会合に参加いただき、両断層の連続性について評価。
 - ・FO-A～FO-B断層と熊川断層との間に断層の有無が不明瞭な区間が相当あり、連動を否定することは難しい。
 - ・3連動を考慮することにより、FO-A～FO-B断層(長さ35km、マグニチュード7.4)ではなく、FO-A～FO-B～熊川断層(長さ63.4km、マグニチュード7.8)として地震動を評価
- 高浜の地下構造の調査等に基づき、震源断層上端深さを申請当初の4kmより浅い3kmで評価。
- 震源を特定せず策定する地震動として、全サイト共通の北海道留萌支庁南部地震だけではなく、地域性を考慮して鳥取県西部地震の震源近傍での観測記録に基づく地震動を追加。



(出典:関西電力説明資料に一部加筆)



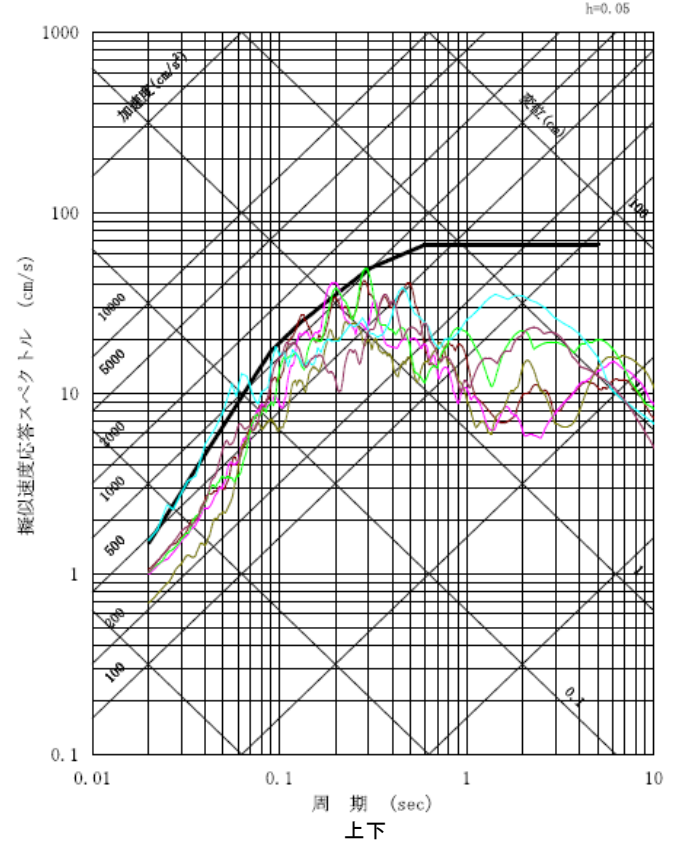
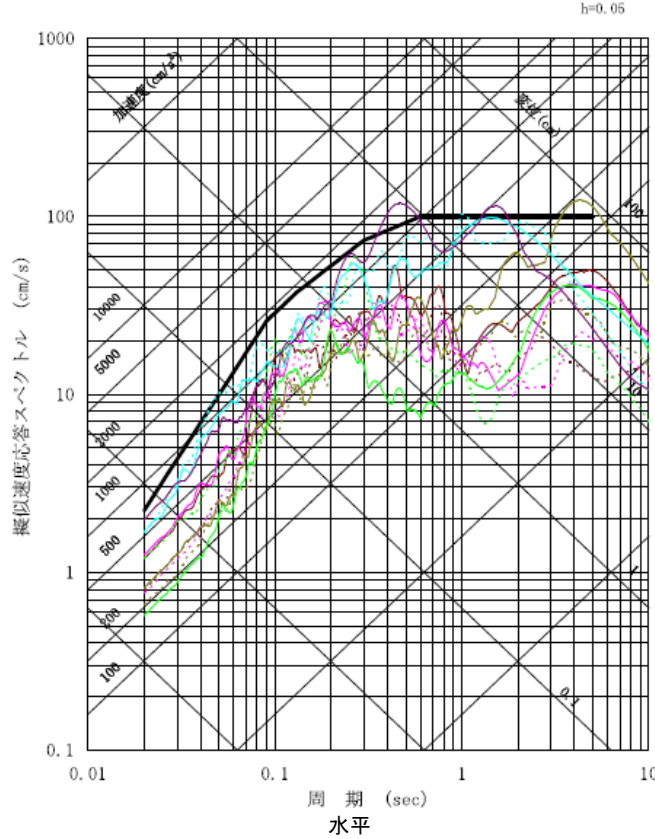
小浜湾内のJNO-a測線の北東側1箇所において、後期更新世以降の活動が否定できない変形構造が認められた。

若狭湾西部海域における海上音波探査について(平成21年4月28日原子力安全・保安院)より抜粋

基準地震動

→7種類の基準地震動を設定。

申請当初の最大加速度550ガルから700ガルに引き上げ。



【敷地ごとに震源を特定して策定する地震動】

Ss-1: 応答スペクトル法に基づき設定

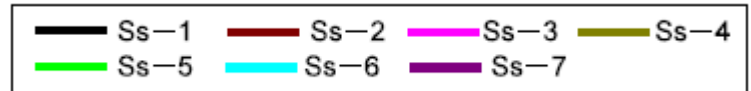
Ss-2~4: FO-A~FO-B~熊川断層

Ss-5: 上林川断層

【震源を特定せず策定する地震動】

Ss-6: 2000年鳥取県西部地震

Ss-7: 2004年北海道留萌支庁南部地震



(Ss-2~6では実線がNS成分、破線がEW成分)

(出典: 関西電力説明資料に一部加筆)

事故の発生を防止

重大事故の発生を想定

原子炉を確実に「止める」対策

核燃料が溶けることを防ぐ、
「冷やす」対策

放射性物質を格納容器内に、
「閉じ込める」対策

放射性物質の放出を想定

放射性物質の拡散を出来るだけ
「抑える」ための対策

※このほか、意図的な大型航空機衝突等のテロによる
施設の大規模な損壊への対策も要求